

サカティンクス株式会社

2023年12月期 第2四半期
決算説明会

2023年8月31日

1. 2023年12月期 第2四半期実績

2. 2023年12月期 通期予想と今後の計画

3. 持続的成長に向けた取り組み

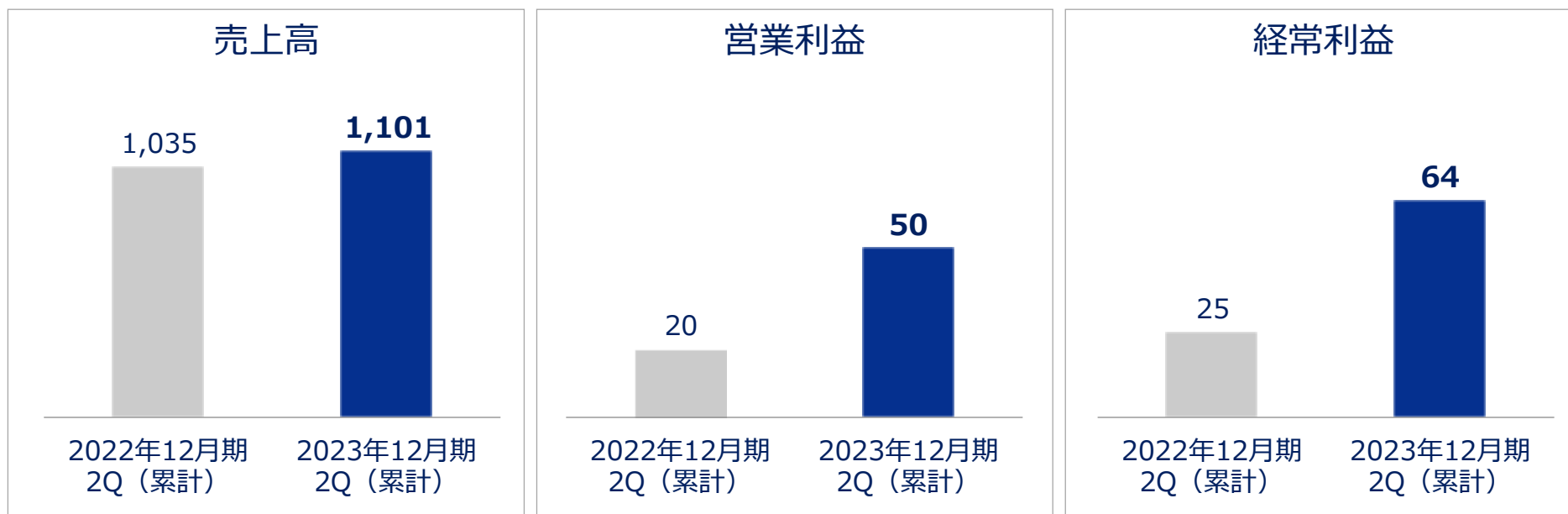
4. 配当金について

本資料に記載されている将来の計画数値、種々の施策は2023年8月31日現在で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断したものでございますが、今後の経済情勢、事業環境等により変化することもあり、計画数値、種々の施策を確約したり、保証するものではありません。

1. 2023年12月期 第2四半期実績

1-1 第2四半期（累計）連結実績

(単位：億円)

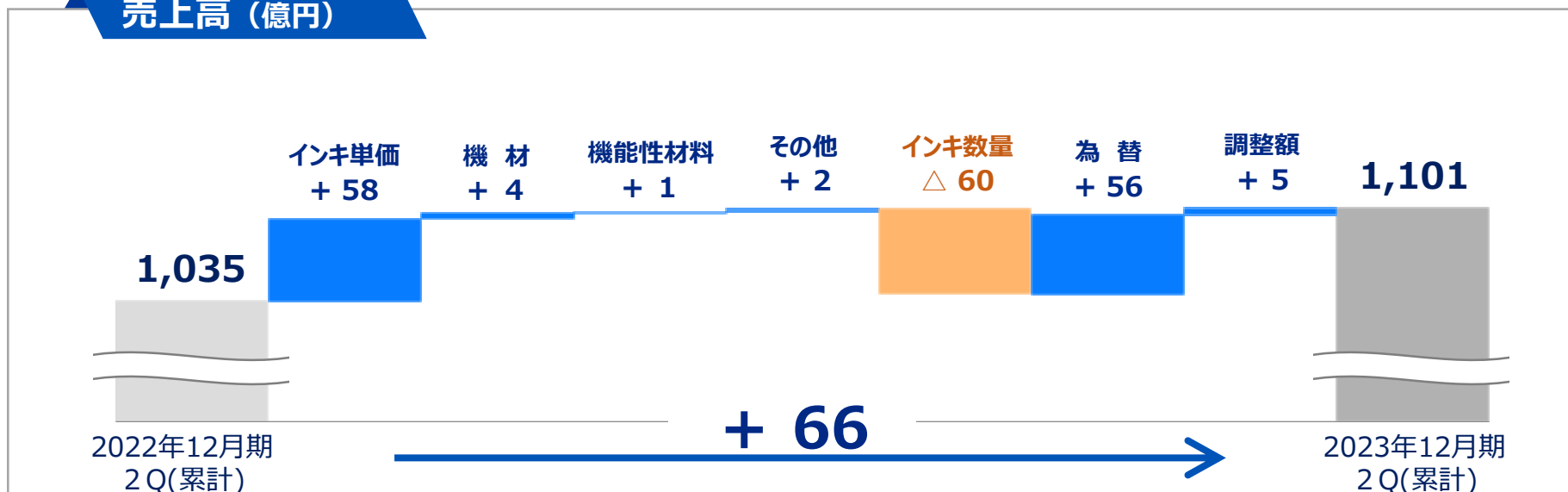


(単位：億円)

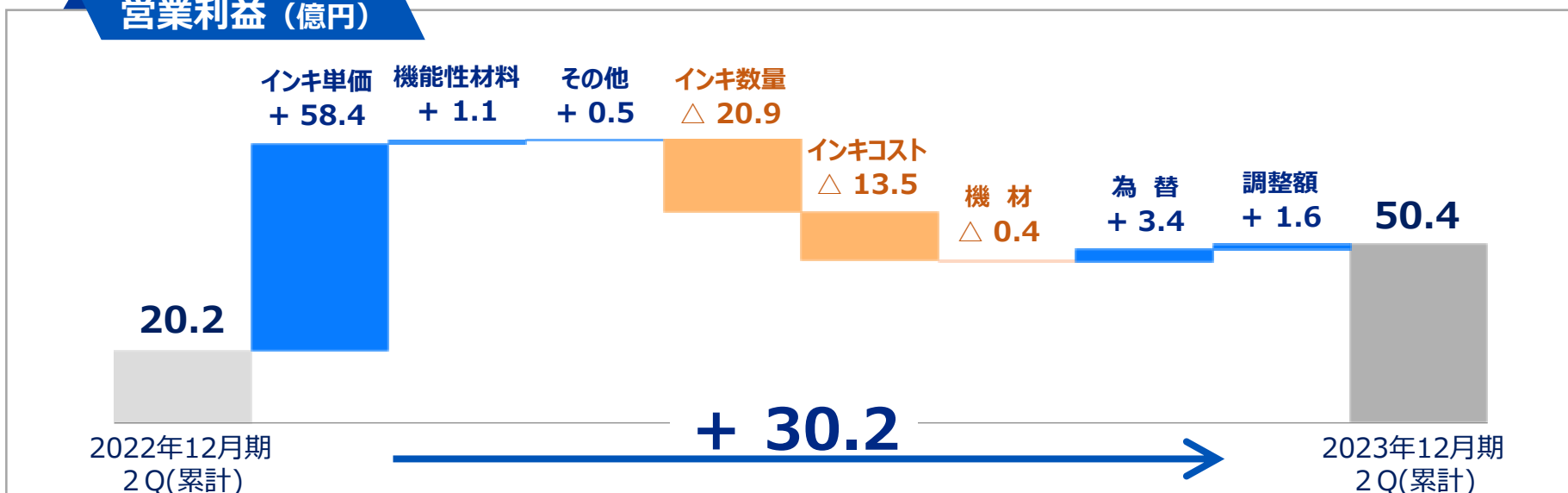
	2022年12月期 2Q (累計)		2023年12月期 2Q (累計)					
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	増減額	増減率	為替換算影響額	為替影響排除後増減率
売上高	1,035		1,101		66	6.4%	56	1.0%
営業利益	20	1.9%	50	4.5%	30	148.8%	3	131.8%
経常利益	25	2.4%	64	5.8%	39	156.8%	3	142.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	24	2.3%	38	3.4%	14	58.8%	2	47.7%
期中レート(USドル)	122.89円		134.85円					

1-2 第2四半期（累計）前年同期比 要因別増減

売上高（億円）

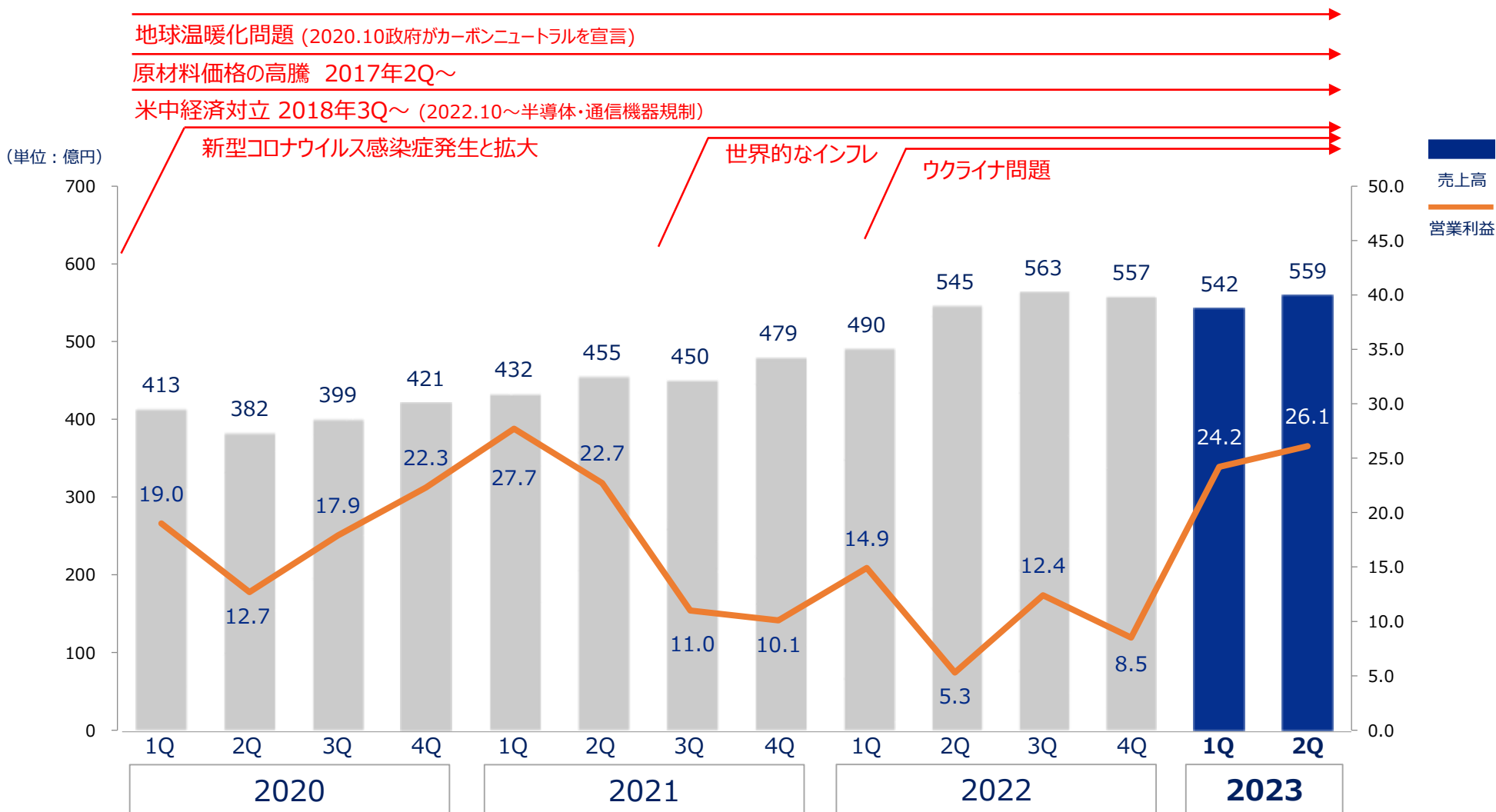


営業利益（億円）



1-3 四半期別 売上高・営業利益

不安定な世界情勢と資源価格高騰により、材料コストや経費の上昇が続いていたが、さまざまなコスト削減、価格改定、材料価格のピークアウトにより営業利益が回復



1-4 コスト上昇と利益改善

コスト上昇と改善策

コスト上昇

- ◆ 材料コスト
- ◆ 物流コスト
- ◆ 人件費
- ◆ ユーティリティコスト

アジア・米州を中心に材料価格が緩やかに下落しているが、その他のコストは高止まりもしくはさらに上昇している。

コスト改善策

- ◆ 価格改定
- ◆ 拠点の統廃合・再編
- ◆ 生産設備合理化
- ◆ 他社との協業

グループ全体で積極的に価格改定に取り組んでいるほか、国内を中心にさまざまなコスト改善策を進めている

価格改定とコスト上昇分の差額推移

(単位：億円)

	2021	2022	2023.2Q	2021年からの合計
日本	△0	△9	+2	△8
アジア	△10	△10	+9	△11
米州	△24	△10	+30	△4
欧州	△3	△7	+4	△6
合計	△37	△36	+45	△28

海外を中心に利益改善が進むが、日本においては今期が材料価格高騰が続いている

1-5 第2四半期（累計）セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	2022年12月期 2Q（累計）	2023年12月期 2Q（累計）	増減率	2022年12月期 2Q（累計）	2023年12月期 2Q（累計）	増減率
印刷インキ・機材（日本）	249	257	3.3%	1.6	1.2	△25.6%
印刷インキ（アジア）	222	241	3.1%	5.0	15.8	216.2%
印刷インキ（米州）	354	381	△2.0%	6.5	23.2	252.0%
印刷インキ（欧州）	93	95	△5.6%	△3.4	△ 3.8	—
機能性材料	77	81	1.1%	8.4	9.7	15.2%
報告セグメント計	997	1,057	0.3%	18.2	46.2	153.2%
その他	71	74	3.1%	1.8	2.3	27.2%
調整額	△34	△ 29	—	0.1	1.8	—
合計	1,035	1,101	1.0%	20.2	50.4	148.7%

利益プラス要因

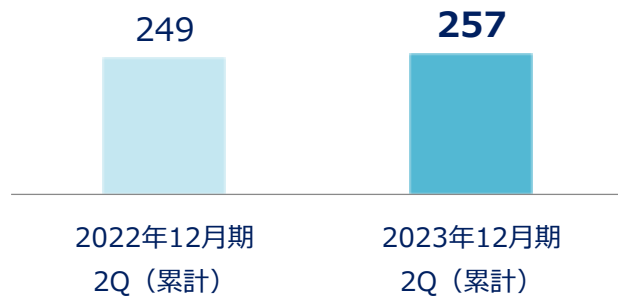
- 価格改定
- 海外における材料コストの改善
- 円安による為替換算影響

利益マイナス要因

- 経済低迷による需要減（米国、欧州、中国）
- 材料コストの高騰（日本）
- 人件費の上昇（特に米国）

1-6 第2四半期（累計）印刷インキ・機材（日本）

売上高（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	8	3.3

+

- 価格改定
- インバウンド需要が回復基調
- 印刷製版用材料、機械販売堅調

-

- 食品、飲料、日用品の値上がりによる買い控え
- デジタル化による情報メディア関連の縮小

営業利益（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	△0	-

+

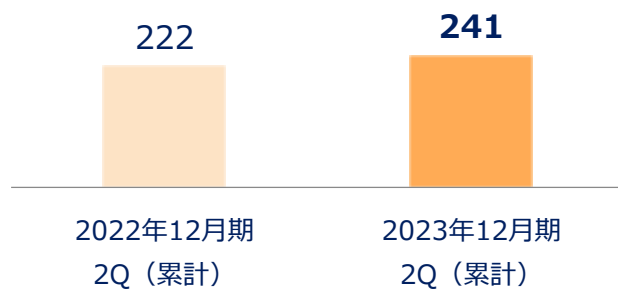
- 価格改定

-

- 販売数量が低調
- 材料コストが高騰
- ユーティリティコストの上昇

1-7 第2四半期（累計）印刷インキ（アジア）

売上高（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	18	8.4
為替影響排除後	6	3.1

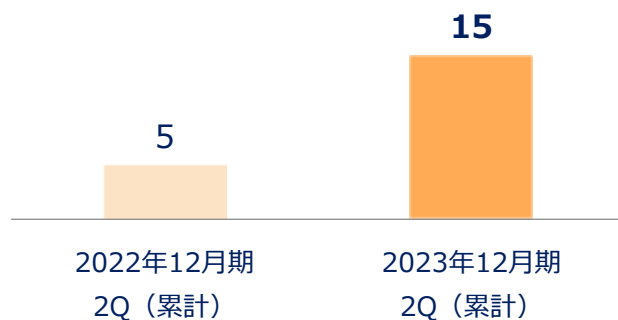
+

- パッケージ関連の拡販（インドネシア、タイ、バングラデシュなど）
- 印刷情報関連の拡販（インドなど）
- 価格改定
- 円安による為替換算影響

-

- 中国経済減速による生産・販売減（中国）
- 米国・中国向けパッケージ関連の需要減（ベトナムなど）

営業利益（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	10	216.2
為替影響排除後	9	193.5

+

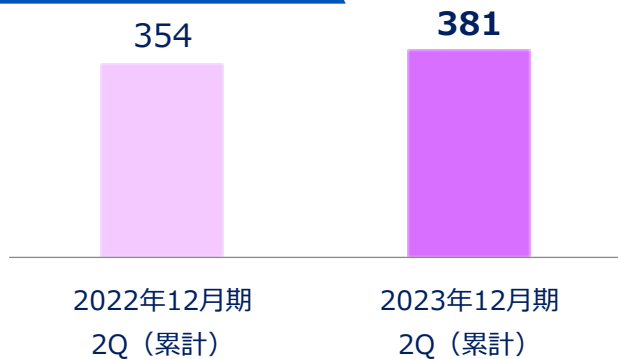
- 価格改定
- 材料コストの改善

-

- ユーティリティコストの上昇
- 人件費の上昇
- 中国経済減速による生産・販売減（中国）

1-8 第2四半期（累計）印刷インキ（米州）

売上高（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	26	7.5
為替影響排除後	△7	△2.0

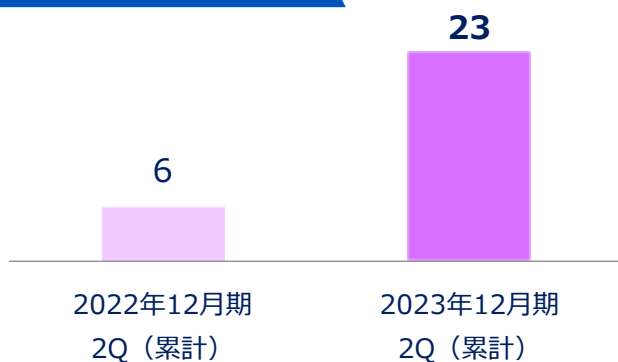
+

- 価格改定
- 円安による為替換算影響

-

- 市況悪化による需要減（パッケージ、メタル）
- デジタル化による情報メディア関連の縮小

営業利益（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	16	252.0
為替影響排除後	14	219.9

+

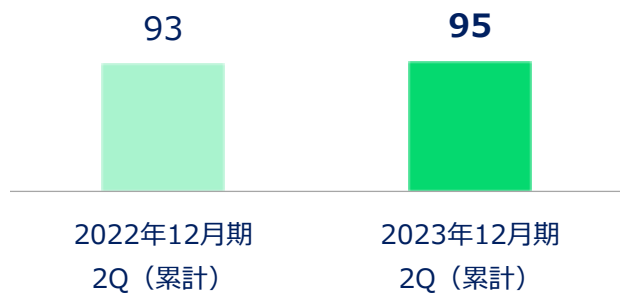
- 価格改定
- 材料コストの改善
- インキコスト削減

-

- 市況悪化による需要減（パッケージ、メタル）
- 人件費上昇

1-9 第2四半期（累計）印刷インキ（欧州）

売上高（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	1	1.8
為替影響排除後	△5	△5.6

+

- パッケージ関連の拡販（スペイン）
- 価格改定
- 円安による為替換算影響

-

- ロシア向けビジネスの消失
- 市況悪化による需要減（UK、ドイツ）

営業利益（億円）



	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	△0	-
為替影響排除後	△0	-

+

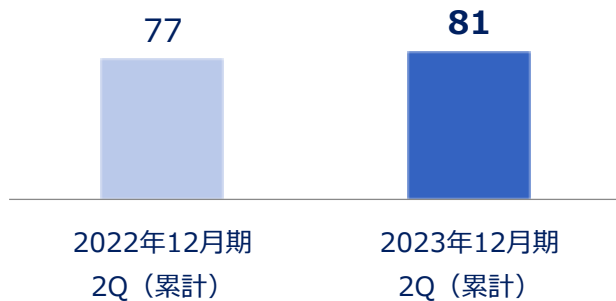
- パッケージ関連の拡販（スペイン）
- 価格改定

-

- ロシア向け消失、市況悪化による需要減（UK、ドイツ）
- 材料コストの高止まり
- 人件費の上昇

1-10 第2四半期（累計）機能性材料

売上高（億円）

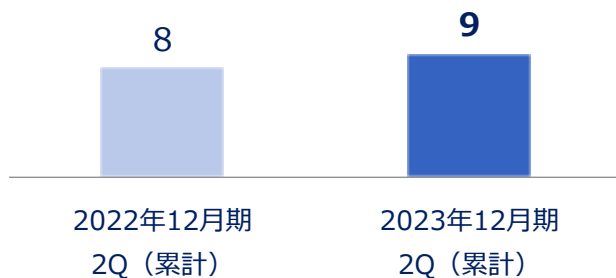


+

- パネルディスプレイ市況の回復（カラーフィルタ用顔料分散液）
- 価格改定
- 円安による為替換算影響

	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	4	5.2
為替影響排除後	0	1.1

営業利益（億円）



+

- 高付加価値製品の展開
- デジタル印刷材料の販売増加（インクジェット）
- 価格改定

	増減額（億円）	増減率（%）
前年同期比	1	15.2
為替影響排除後	1	12.4

1-11 第2四半期（累計） 連結貸借対照表の主な増減・連結キャッシュフロー計算書

◆ 連結貸借対照表の主な増減

(単位：億円)

科目	2022年 12月31日現在	2023年 6月30日現在	増減
現金・預金	121	144	23
売上債権	538	578	4
流動資産	1,011	1,084	72
固定資産	762	837	75
資産合計	1,774	1,922	148
仕入債務	374	360	△13
短期借入金	130	151	20
流動負債	591	602	10
長期借入金	112	125	12
固定負債	253	278	25
負債合計	844	880	35
自己資本 ※	862	966	104
非支配株主持分	66	74	8
純資産合計	929	1,041	112
負債・純資産合計	1,774	1,922	148
期末レート (USD/円)	132.70円	144.99円	-

借入金合計

2022年12月末 278億円

2023年6月末 313億円

自己資本比率

2022年12月末 48.6%

2023年6月末 50.3%

※ 自己資本

= 株主資本合計 + その他の包括利益累計額合計

◆ 連結キャッシュフロー計算書

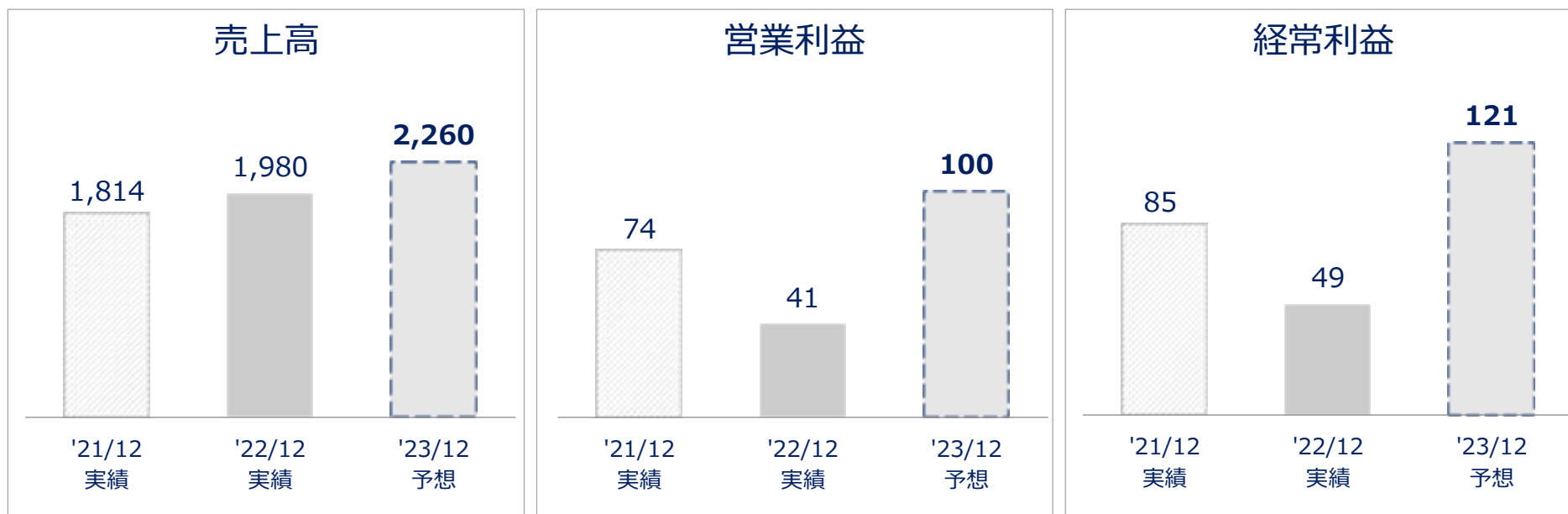
(単位：億円)

科目	期別	2022年12月期 2Q (累計) (2022.1.1~6.30)	2023年12月期2Q (累計) (2023.1.1~6.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー		△31	37
投資活動によるキャッシュ・フロー		15	△40
財務活動によるキャッシュ・フロー		△6	11
現金及び現金同等物の四半期末残高		105	138

2. 2023年12月期 通期予想と今後の計画

2-1 通期業績予想

(単位：億円)



(単位：億円)

	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期 通期予想 (修正)				
	金額	金額	金額	前年比 (増減額・率)		2/14予想比 (増減額・率)	
売上高	1,814	2,155	2,260	104	4.9%	40	1.8%
営業利益	74	41	100	58	142.4%	40	66.7%
経常利益	85	49	121	71	143.9%	53	77.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	49	45	79	33	73.4%	32	68.1%

2-2 セグメント別 通期業績予想

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	2022年12月期	2023年12月期 予想	前年比	2022年12月期	2023年12月期 予想	前年比
印刷インキ・機材（日本）	514	538	4.6%	4	8	102.7%
印刷インキ（アジア）	480	502	4.7%	17	33	94.8%
印刷インキ（米州）	738	775	5.0%	3	40	1,038%
印刷インキ（欧州）	194	189	△2.8%	△5	△7	—
機能性材料	155	170	10.1%	15	16	5.9%
報告セグメント計	2,083	2,176	4.4%	35	92	163.4%
その他	140	144	3.0%	3	2	△18.7%
調整額	△68	△61	—	2	4	—
合計	2,155	2,260	4.9%	41	100	142.4%

利益プラス要因

- 価格改定
- 海外における原材料価格のピークアウト
- インキコストの削減努力
- 円安による為替換算影響

利益マイナス要因

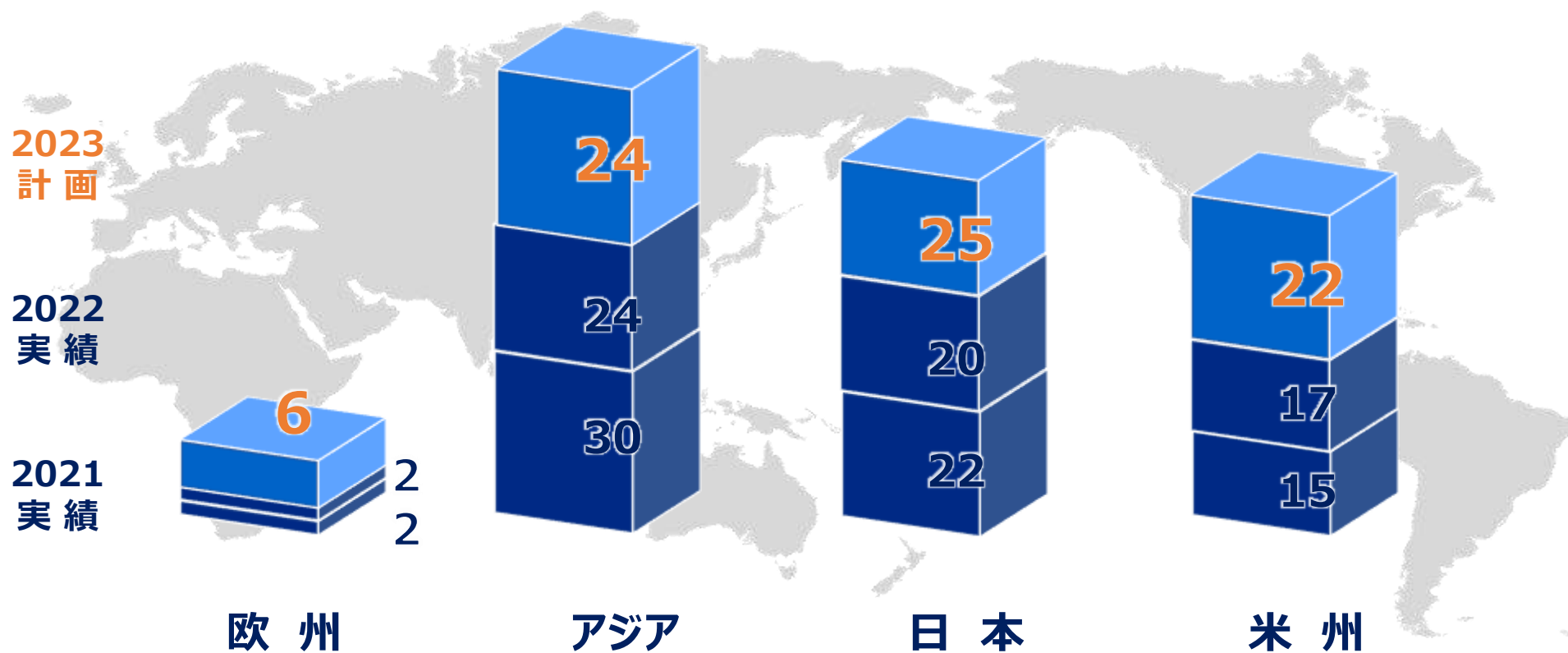
- 人件費やユーティリティコストの上昇
- デジタル化進展による情報メディア関連の需要減

2-3 地域別設備投資予定額 (非連結含む)

(単位：億円)

2023年12月期計画

今期設備投資予定額
78億円



2-4 主な投資計画

完工

今後の計画

日本

- 大阪工場リニューアル（'23年 完工予定）
- 基幹システム更新（'24年1月稼働予定）

中国

（広東省茂名）

- オフセットインキ第2工場建設（'24年 完工予定）

インド

（パナリ）

- UVインキ設備増強（'23年 完工）

アメリカ

（ウィスコンシン州）

- パッケージインキ用新工場建設（用地取得済み）

（イリノイ州）

- UVインキ製造設備増強（'24年 完工予定）

アメリカ

（ニューヨーク州）

- 缶用インキ設備増強（'23年 完工）

チェコ

（プラハ）

- インクジェットインキ製造設備増強（'23年 完工予定）

ベトナム

（ハノイ）

- パッケージ用インキ設備増強（'23年 完工予定）

フィリピン

（マニラ）

- パッケージ用インキ新工場建設（'24年 完工予定）

コロンビア

（ボゴタ）

- パッケージ用インキ設備設置（'23年 完工予定）

ブラジル

（サンパウロ）

- パッケージ用インキ新工場建設（'25年 完工予定）

3. 持続的成長に向けた取り組み

3-1 持続的成長に向けた取り組み（長期ビジョン）

SAKATA INX VISION 2030

Create and **I**nnovate, **C**are for the Earth, **C**olor for Life

あなたと、つくる、価値ある、あした

戦略の方向性

地球環境と地域社会を重視した

ESG・サステナビリティの取り組み強化

印刷インキ・

機能性材料事業の拡大

新しい事業領域への挑戦

基盤構築

事業拡大収益力強化

長期ビジョン実現へ

中期経営計画2023
CCC-I

中期経営計画2026
CCC-II

中期経営計画2029
CCC-III

3-2.1 新規事業分野

メガトレンドを踏まえ、社会課題の解決に向けた開発に注力

エレクトロニクスケミカル分野

新規材料開発から社会実装までのトータルソリューションを提供

開発製品群

配線材料

導電性
接着剤

低温焼成
金属ペースト

防湿コート剤
等

用途例



センサー



ディスプレイ・タッチパネル



次世代プリント基板用材料



モビリティ

エナジーケミカル分野

再生可能エネルギー生成と効率的な利用を促進する材料開発

開発製品群

二次電池用
材料

熱マネジメント
材料

用途例



二次電池



モビリティ



センサー

環境・バイオケミカル分野

環境に配慮した材料開発や健康増進に貢献

開発製品群

UV硬化
樹脂

エポキシ
樹脂

脱墨
プライマー

健康素材
機能性成分

用途例



工業用塗料



電子部材や接着剤など



リサイクル



健康食品向け原料

オプトケミカル分野

分散技術を活用した材料開発でより快適な生活に寄与

開発製品群

高・低屈折率
調整材料

透明
絶縁材料

ポリシロキサン
材料

次世代表示
光学材料

用途例



AR・VRデバイス



モバイル機器



センサー



高性能フィルム



ディスプレイ

3-2.2 新規事業への取り組み

当社にない企業・技術に投資して、新規事業の早期確立を目指す

<目的>

当社グループの世界的なイノベーションに向けた取り組みと有望なベンチャー企業の技術を融合させ、新しい技術の開発やビジネスモデルを創造することで、持続可能なソリューションを提供していく

<投資分野>

地球環境の持続可能性と二酸化炭素排出量の削減、デジタル印刷ソリューション、DXやファクトリーオートメーション、ブランドオーナー向けサービスなどの分野

<対象企業>

新たな技術や材料の開発に取り組む、収益を上げ始めた初期段階のスタートアップ企業

◆ 投資先事例

投資先	Canworks 社	Debut Bio 社	Gooten 社	Matwerkz 社	AMR 社	WFC 社
分野	デジタル印刷	バイオ素材	ウェブ印刷プラットフォーム	熱マネジメント材料	ラボオートメーション	エレクトロニクス関連材料
出資方式	CVC	CVC	CVC	DI	DI	DI
事業の可能性	当社の強みであるメタルインキを活かした新事業	発酵やセルフリーバイオ合成の技術を用いた新素材と当社技術との融合	小売り業者と印刷会社をつなぐ印刷ネットワーク構築。衣類・テキスタイルに強み	高出力、高集積化が進むエネルギー分野において、ユニークな熱制御材料の開発	さまざまな研究開発において、当社コア技術を生かした素材提案	IHリフロー技術のプロセスに合わせた素材開発・社会実装のためのトータルソリューション提供
出資社	アメリカ	アメリカ	アメリカ	日本	日本	日本

このほか、オープンイノベーションやM&Aなどの取り組みも進めて、新規事業の確立に向けて推進

3-3.1 ESG・サステナビリティの取り組み強化（マテリアリティと進捗）

マテリアリティ（重要課題）

持続可能な地球環境を維持するための活動

安心・安全な製品の供給

研究開発・技術力の強化

コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの強化

人権の尊重、DE&Iの推進


個別課題

2023年までの進捗・取り組み

2030年目標KPI

- E**
- ・気候変動・自然環境保全に関わる活動
 - ・TCFD提言に沿った情報開示
 - ・ボタニカルインキ
植物由来成分使用によるCO₂排出抑制に貢献

- ・環境や生物多様性に関する各種方針の策定・改定
- ・2022年度CO₂排出量30.5%削減
(国内工場2013年比)
※2023年度KPI29%削減目標を前倒して達成
- ・国内パッケージインキ（フィルムパッケージ・紙袋）のボタニカルインキシリーズ販売比約6割超
(販売伸長率2018年比2倍増)

- ・GHG50%削減（Scope1&2）
(2023年:29%削減、2026年:35%削減、2050年実質ゼロ)
 - ・ボタニカル製品比率の向上
ボタニカル度の向上
持続可能な製品ラインナップの拡充
- 

- S**
- ・働きがいのある職場・組織風土の実現
 - ・グローバル人材など育成のためのキャリアパス・人事政策

- ・健康経営優良法人2023認定
- ・タウンホールミーティング
- ・女性活躍や男性育休取得推進などのプロジェクト

- ・重大な人権侵害 ゼロ
- ・「健康経営優良法人 ホワイト500」の認定
- ・国内女性管理職比率15%以上

- G**
- ・グローバル経営体制の強化
 - ・リスクマネジメントの強化
 - ・コンプライアンスの教育と啓発

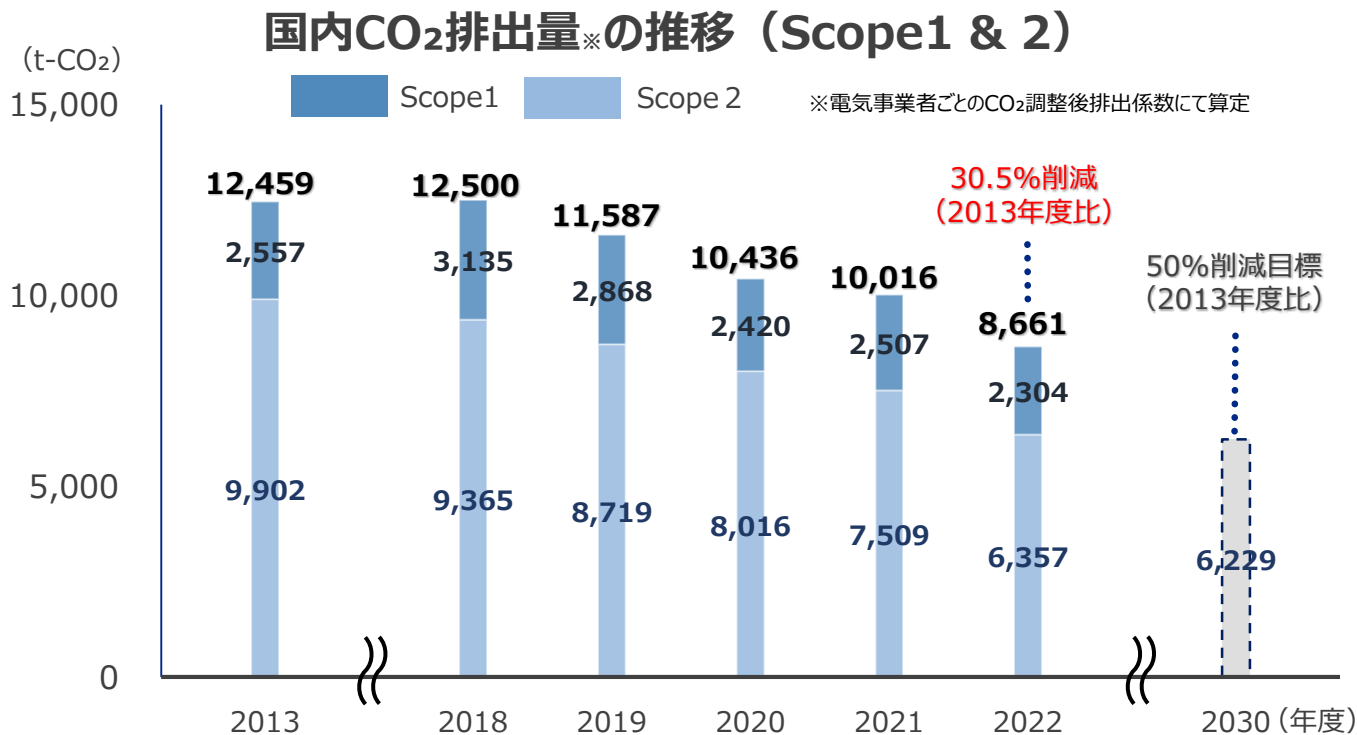
- ・「グローバル連結経営推進グループ」を新設
- ・腐敗防止基本方針の策定
- ・倫理行動基準のグループ対象へ改定

- ・グローバルな組織体制の確立・運用
- ・グローバルなリスクマネジメント体制の確立
- ・重大コンプライアンス違反件数 ゼロ

3-3.2環境負荷低減の取り組み

目標と実績

2022年度 実績
30.5%
2023年度 目標
✓ 29.0% 達成
2030年度 目標
50.0%
2050年度 目標
実質ゼロ
外部評価
 2022年度スコア B-



今後の環境戦略

■ インターナルカーボンプライシング (ICP) 導入

- ・2024年度より運用開始
- ・設定価格：15,000円/トン

■ TCFDフレームワークに沿った取り組み

- ・気候変動によるリスク、機会のシナリオ分析
 - ▶7月末発行の統合報告書2023において開示
- ・今後、財務影響の分析・開示

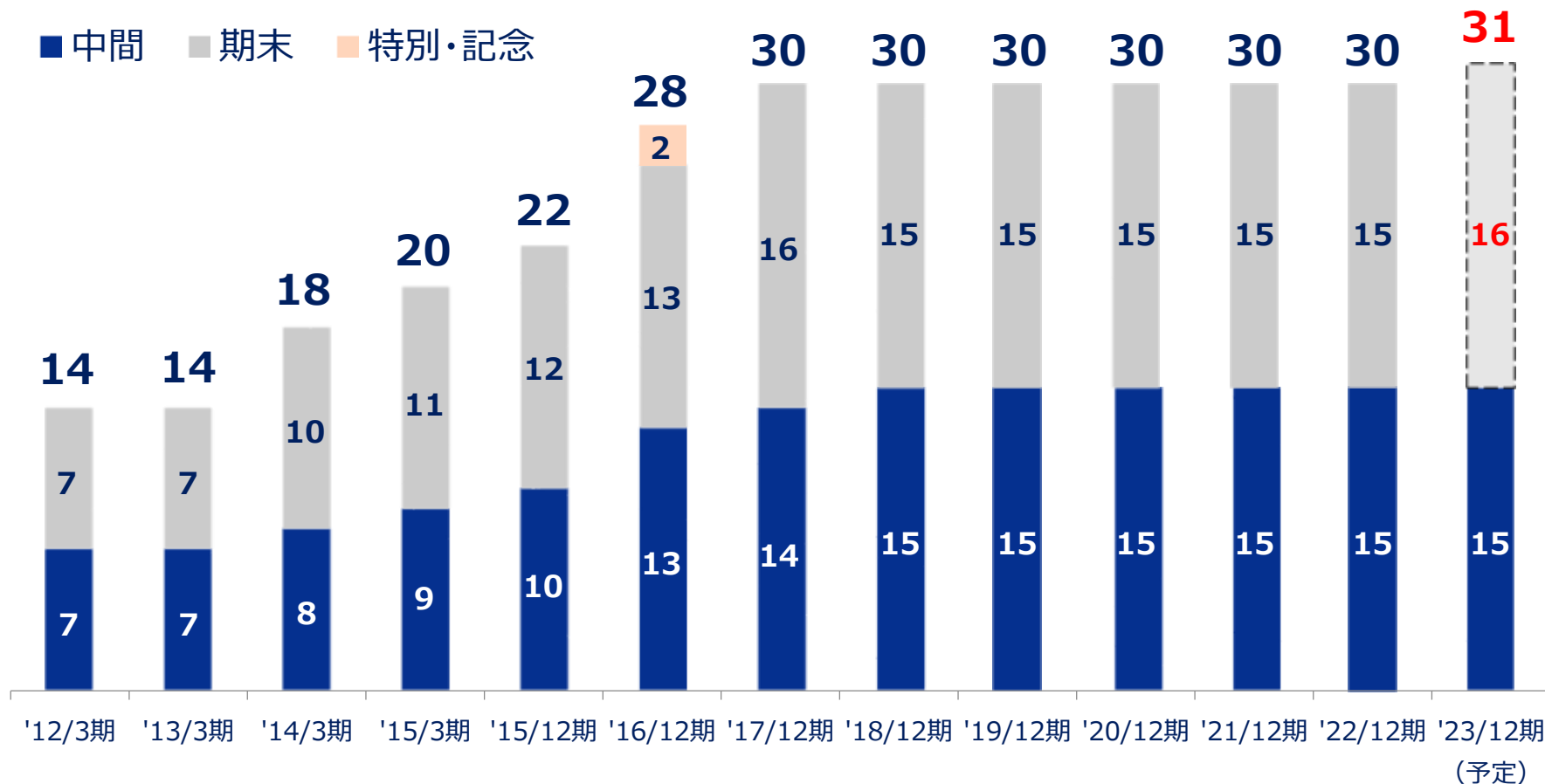
4. 配当金について

4-1 配当金の推移（1株当たり）

<配当方針>

- 安定的な利益還元
- 連結配当性向20%前後～30%前後

(単位：円)



サカタインクスグループ「統合報告書2023」を発行しました。
ぜひご覧ください。

<https://www.inx.co.jp/eco/report.html>



<お問い合わせ先>

サカタインクス株式会社 広報・I R 室

電話 03-5689-6601

メール inx-prir@inx.co.jp

SAKATA INX...

Visual Communication Technology